（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービスぽたぽた鶴見校

公表日　令和7年　2月　17日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	・活動によってスペース活かせる工夫している。 ・活用に適切なスペースを確保し、安全や活動に差しさわりがない。	今後なども考えながら、利用児童数の活動にあわせたフリースペース確保に努めていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0	・利用者と職員の効果的な活動が図られるよう、人員確保を行っている。	今後も安心して利用していただけるよう、適切な職員配置を維持する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の規模等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や視認に適等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	4	・利用から考慮の長時間化等は、事業所ロッカーの配置を行っている。 ・職員動線の一つとして、ホワイトボードを設置している。	長期的にスケジュールの形に対応遅延あり、全ての活動に対する効果的なものとなっていない。今後、利用者の活動にあわせて対応を図ります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に応じた空間となっているか。	8	0	・事務時に、子ども達が嫌がり時間がかかりがちな中、効果的な時間を作り出している。 ・子ども達の興味関心に対応出来る、事業を進めるようにしている。	視聴、聴覚、触覚等の刺激を合う。 フィードバックをおこなって、発達に合った活動に努めていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	・家族の事情や体調を考えて、ご利用いただく。	今後も継続。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	0	・定期的な職員会議、また必要応じ様々な委員にも参画を行っている。職員間で情報の共有や問題の検討、改善に努めている。	今後も継続。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	職員会議を行い、職員間で共有しながら、より良い改善策について話し合うことができている。	今後も職員間とアイデアを出し合いながら、よりよい支援に努めたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	8	できていない。	今後実施に向け、調整を検討。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	虐待・身体拘束廃止研修、感染症予防研修等、実施している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	0	8	職員に周知している。公表は未だである。	年度末までに公表する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	できている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最高の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	できている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	できている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを使用する事により確認している。	8	0	できている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・関係機関」のならび及び支援内容を踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、そのよって、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	できている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	・毎朝に間隔なく、職員それぞれ情報や設定事を行い、立案している。 ・職員もいやすいよう、職員間の風通しの良い環境づくりに努めている。	今後も継続。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	・定期的に新しい活動の提案を設定し、こども達に楽しみ方をお伝えしている。 ・また、ボランティアプログラムの提供を行っており、様々な職員がなお、多彩活動をさせるこどもと活動させるべきものとは分けて・最近では、決定事項を取り入れた運用者も実施。	平日はもうすぐ運動を取り入れ、バランスのとれた機能を行いたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	2	個別に集団、バランスよく伝えるよう努めている。	今後も継続。
	20	支援開始前には職員間でふり打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	・支援前に必ずミーティングを行い、当日の活動の確認や役割の明確化を図っている。活動は活用の要注意を確認を行い、スムーズに活動が進められるよう努めている。 ・当日、活動日の確認に活動日、所有するようにしている。	今後も継続。 活動に合わせて、活動内容のことを伝えるようにしておく。
	21	支援終了後には、職員間でふり打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	・ご利用日毎の連絡ノートの記入とともに、日々の様子を記録、報告している。	今後も継続。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	・6カ月毎にモニタリングを行い、見直しをしている。 必要に応じて適宜には、6カ月毎に特に手モニタリングを行い、家族支援の要請を行うことがある。	今後も継続。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	8	0	できている。 また、できるようにも努めている。	今後も継続。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をするを育てるための支援を行っているか。	8	0	日々のなかで自己決定事についてを、こどもへ一人一人が自己選択に、自身と連絡決定事項を伝えることている。	今後も継続。 ・さらなるこどもへ、こども自分のアイデアがなかなか出現し、選択肢自分のなかでチャンスをこどもに与えて自分の意思を明確に伝えられるようにしたい。同時にアプローチをこの相応。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況を正く理解した者が参画しているか。	8	0	コロナ禍以降、対面での会議が行えなくなり、だが、電話でやりとりは積極的に行っている。	今後も継続。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	地域の医療機関に協力、協力を仰いでいる。	今後も継続。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時間の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	0	管理者はやっている。その他の職員も情報共有に行っている。 学校の協力を得ながら支援を行う事ができる。	今後も継続。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	3	直接的に伝えていないが、家庭からのカイダの報告をしてくださり、同様者やほかの園に関して情報交換を行っている。	今後も継続。 必要に応じて、直接的ほかやこどもに伝えるようにしておく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している。	8	0	放課後児童クレ（仮称）、スムーズにやりとりを行い、移行の支援情報交換ができるように取組む。	今後放課後児童クレ（仮称）、スムーズにやりとりを行い、移行の支援情報交換ができるように取組む。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	4	4	家族自の先生達いて知恵をいただくことがある。	今後も継続。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の色のこどもと活動する機会があるか。	0	8	現在は、実施していない。	機会があれば検討したい。
	33	（仮称）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	0	こども的に積極的に参加している。	今後も継続。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を図っているか。	8	0	直接的や電話、LINE、連絡ノート活用などで、活用しながら、さらに多くをこどもの状況や家庭などにおきるよう努めている。 ・ご利用日毎の連絡ノートの記入とともに、様子を伝えている。	今後も継続。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	8	できていない。	要望があれば検討。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	できている。	全体プログラムについては、年末に公表実施であり、年度末までに公表する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最高の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	毎朝や夕方、特に初にこどもの意向を確認することが難しい場合もあるが、可能な限り意向を聞くできるよう努めている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	8	0	できている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	モニタリング等、そうでない時にも、必要性を感じたり、保護者の要望があれば、その都度対応できるように取ている。	今後も継続。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	8	学校で行われている中で、放課後等デイサービスでは行っていない。	要望があれば検討。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0		苦情があるときには、迅速に対応できるようにする。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	できている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	できている。 個別指導は事業に、個人ファイルを保管している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	1	視覚支援や絵カード、職員手作りのヘルプカードなどを取り入れている。	今後も継続。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	8	できていない。	要望があれば検討。
非常時等の対応	46	感染防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	・マニュアルを作成している。 ・緊急時や災害時のマニュアルは、保護者と共有しており、お預かりの際にいつでもご覧いただけるようにしている。 （年度ごとに確認し、事前・事後に）	・今後もマニュアルを定期的の日の度ごとにその場合の場合の緊急事態に即した対応を図って、保護者にはスムーズに対応できるようにしたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	できている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	服薬時の確認等に確認を行っている。 特に、服薬や発作などに対応が必要はない。	今後も継続。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	2	アレルギーの確認しているが、母親側に指示書作成や提出の申請中の状況である。	今後も継続。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	できている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	8	0	できている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	できている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	できている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明した上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	身体拘束に該当する行為を行わない。 緊急時に対し、個別の緊急時の対応に対応を図っている。	身体拘束に該当する行為の中の身体拘束の内容を、必要性の説明を、その内容を、その内容を、その内容